

2010年10月資料展示

<江戸切絵図>

「江戸切絵図」とは、「江戸大絵図」などのように江戸全般を地図に表したのではなく、細かい道筋や大名屋敷の名前なども記入した携帯用の「区分地図」です。江戸時代にはこのように木版の地図が数多く出版されました。

今回展示する「江戸切絵図」は、幕末の嘉永2年～5年にかけて当時の著名な板元である「近吾堂」(近江屋五平)によって出版されたもので、江戸中心地が30区画の折りたたみ式の絵図(約40×60cm)に分割され持ち運びに便利のように工夫されています。個人蔵として長く所持されてきたものですが、このたび立教大学に譲渡されましたので、図書館内およびWeb上で展示いたします。

最近、古地図を片手に現代の東京を散策する「街歩き」もはやっていますが、立教大学には複製版の古地図なども数多く所蔵されています。古地図を見ながら、約260年続いた日本の近世「江戸時代」に思いを馳せつつ伝統文化や歴史にも親しんで下さい。

立教大学図書館

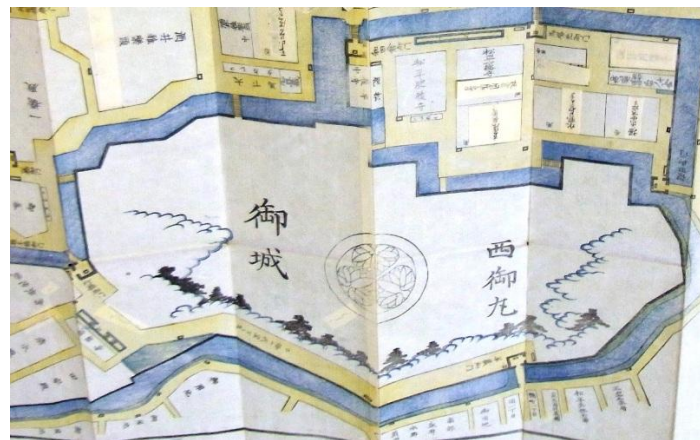
【展示資料】

[近吾堂板 嘉永年間江戸切絵図] 揃 30枚 帙入り

懐中番町絵図、懐中永田町絵図、日本橋神田絵図、外神田下谷上野辺絵図
牛込・市ヶ谷御門外地図、小日向・小石川・牛込地図、日本橋南芝口辺地図
上水北小日向・小石川辺図、麻布・広尾辺図、下谷・浅草・箕輪・山谷辺図
高輪・白金辺図、御大名小路辰之口辺図、四谷千駄ヶ谷辺図、
駿河台・小川町辺図、浅草鳥越堀田原図、赤坂今井辺図、芝愛宕下西久保図
本郷・谷中・小石川・駒込図、改正小石川辺図、改正渋谷宮益坂辺図、
改正大久保外山辺図、改正本所・猿江・亀戸辺図、雑司ヶ谷・音羽辺図
改正青山・長者丸辺図、改正南本所竪川辺図、改正白山・駒込辺図
改正駒込・巢鴨辺図、改正内藤新宿・新屋舗・代々木辺図
改正北本所・中ノ郷・石原辺図、深川之内小名木ヨリ南の方一円



「江戸切絵図」(近吾堂) 全体図



江戸城付近

古地図の読み方・見方

元立教高校教諭、(財)地図情報センター理事、新宿区文化財保護審議会委員
清水靖夫

地図は描かれた時点での、地表の状況を目的に従ってほぼ忠実に表現している。やがて数年、数十年、数百年経つと、その地図は古地図（あるいは旧版地図）と呼ばれるようになる。古地図は知りたい場所の過去の景観を復元できる大切な資料（史料）ということができる。

過去の姿を読みとるためには、古地図それぞれの言葉（記号）を知ることが大切で、現在の地形図や地図帳の記号のルーツになったものもある。

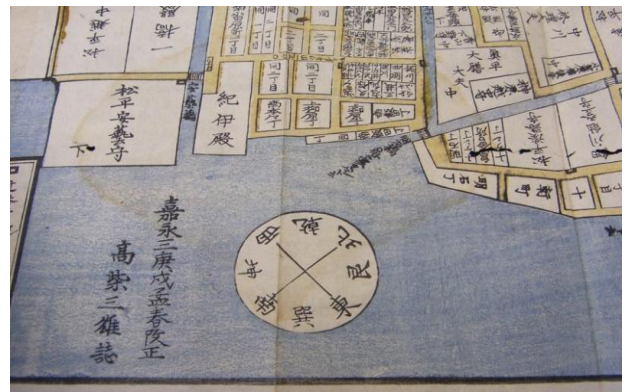
江戸の古地図（以下江戸図と表記）特有の約束ごと（記号）がある。版元（板元）によって多少異なるが、屋敷の居住者名の文字は入口が上になる様に記されている。また上（かみ）屋敷には家紋、中（なか）屋敷には■、下（しも）屋敷には●が付されている。なお近吾堂板江戸切絵図では、上屋敷、中屋敷、下屋敷を文字で記してあり、更に辻番所に□、里俗地名に○、坂には△の記号が使われている。勿論、大名・武家屋敷、寺社が表示の対象である。

江戸という広大な都市を、一枚の地図で表すと、個々の屋敷や道路網が細くなりすぎる。幕末には2m四方の大型江戸図もいくつか出版されている。

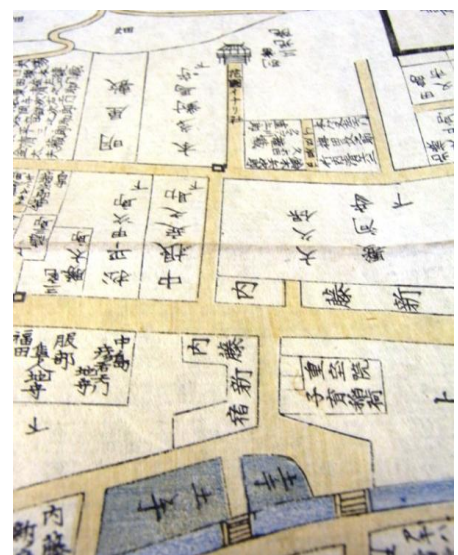
持ち運びや狭い場所での利用には、どうしても紙の大きさに制約がある。小地域の詳細な地図として江戸切絵図が要求され、作られたようである。江戸と言う都市には、現在の豊島区などのような行政区分は無く、江戸切絵図は便宜的な地域で区切ったようで、後に再区分された地図もあった。江戸中期にも切絵図を作りかけた板元はあったが、続かなかった。幕末にシリーズとして作ったのは、「近吾堂近江屋五平」で、弘化3(1846)年であった。江戸時代、大名・旗本などの屋敷には、時代劇にあるような表札は無く、旗本屋敷の多い番町では、旗本屋敷への訪問者や御用先を尋ねる人々が、麹町通りに雑貨荒物を商う近吾堂へ案内を乞うたようである。近吾堂が案内図作りから切絵図作りへと需要を見込んで進んだのは想像に難くない(近吾堂に3年遅れ金鱗堂尾張屋も切絵図作りを始めている。色彩豊かな尾張屋板は江戸土産にもされ普及した)。

改易（屋敷の没収）、転居など変化の多い武家屋敷に対応するため、2～3年ないし数年の間隔で修正、改訂し、埋め木や彫り直しなど、淡彩で明瞭な近吾堂板は安政3(1856)年まで修正を重ね、一部尾張屋に吸収されているが、明治3(1870)年まで刊行を続けた。

今回、立教大学の所蔵となった近吾堂板江戸切絵図は、比較的早い時期の地図で、刷りが明瞭であり、資料性の高い地図である。



築地・明石町付近



内藤新宿付近